

滋賀県知事 三日月大造 様

日米共同訓練はただちに中止を求めます

2024年4月25日

日本共産党滋賀県委員会

日本共産党滋賀県議会議員団

陸上幕僚監部は 11 日、7月に中部方面区内などで米陸軍と中部方面隊による実動訓練（オリエント・シールド＝東洋の盾）を実施すると新年度の「陸上自衛隊主要訓練・演習の年度広報」で発表しました。オリエント・シールドは、米陸軍と陸上自衛隊が毎年実施している国内最大規模の実動訓練です。今回の訓練の場所・内容について陸自は「調整中」としていますが、中部方面区内ではこれまで、120 mm迫撃砲などの実弾射撃訓練が唯一できる饗庭野演習場（高島市）で繰り返されており、今回も饗庭野演習場での実施が濃厚です。饗庭野で実施されれば、19回目の日米共同訓練になります。

2021年以降のオリエント・シールドは、米陸軍MDO（マルチドメイン作戦）と、陸自CDO（領域横断作戦）を連携した実動訓練を行っており、陸・海・空だけでなく、宇宙・サイバー・電磁波など、敵国を制圧するためにあらゆる分野で共同し、対中国を想定した危険な訓練に様変わりしています。

その上、発表直前に開かれた日米首脳会談（日本時間 11 日未明）の共同声明は、「作戦及び能力のシームレス（切れ目のない）な統合を可能にし、平時及び有事における自衛隊と米軍との間の相互運用性及び計画策定の強化を可能にするため」として、「それぞれの指揮統制枠組みを向上させる」としています。自衛隊が米軍の事実上の指揮下に組み込まれることとなるもので、このもとで実施される今回の訓練は、憲法違反の「敵基地攻撃」とどまらず、国連憲章違反の先制攻撃のための訓練となり、断じて容認できません。

前回（2021年）の饗庭野でのオリエント・シールドでは、訓練期間中に 120 mm迫撃砲弾が演習場外に着弾する、人命を奪いかねない重大事故が起きました。しかし、共同訓練は中止されず、人命より軍事が優先されました。今回の訓練では、新配備の 16 式機動戦闘車（MCV）や戦闘ヘリからの実弾射撃訓練など、かつてなく危険な訓練となる可能性が強まっており、地元住民が、危険な訓練の中止を強く求めています。

いま求められているのは、東アジアの軍事的緊張を激化させる「戦争の準備」ではなく、外交による「平和の準備」です。日本共産党は、「外交ビジョン」で、東南アジア諸国連合（ASEAN）と協力し、地域のすべての国ぐにを包摂する枠組みを強化し、東アジアに平和を創出していくという、憲法 9 条を生かした外交提言を行っています。

軍事同盟強化や大軍拡をきっぱりとやめ、外交による平和創出に徹することこそ、平和をつくる希望となります。「戦争の準備」のための日米共同訓練は、絶対に認められません。ただちに中止するよう、国（防衛省、陸上自衛隊）に要請することを求めます。

以上